



本紙に掲載されている本会オンライン事業の画像は、本会理事長が撮影を許可した広報委員会によるものです。本会オンライン事業に関するコンテンツの複製、その利用等は、目的の如何および個人利用を問わず、本会理事長が許可した場合を除き一切禁止しております。



News Letter

No.45

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2021年9月30日発行

【本号のトピックス】

学会見解論文英語版受賞報告／在宅歯科医療委員会からのお知らせ
専門医活動レポート／支部だより／第10回高齢者医療 臨床研修会報告
委員会だより(財務・表彰)／33回大会に向けて／24回歯科医学会報告

祝 Robin Heath Award for the most-cited paper in Gerodontology

理事長 水口俊介

口腔機能低下症の学会見解論文の英語版が Gerodontology の the Robin Heath Award for the most-cited paper in Gerodontology を受賞しました。

最も引用された論文ということですので、見解論文の作成はもとより、その後の研究活動において、本論文を引用して下さった方々のおかげだと思えます。

まさに、日本老年歯科医学会が賞されたということになると思えます。

現在、Gerodontology において Oral hypofunction

に関する Special Issue が作成されています。

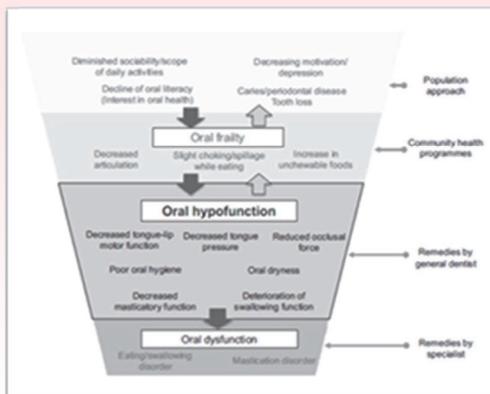
Special Issue とこの受賞を Oral hypofunction の理解と啓発、そしてさらなる深化の契機としたいと思います。

「Oral hypofunction in the older population: Position paper of the Japanese Society of Gerodontology in 2016」

(Gerodontology : First published: 08 June 2018)



この Gerodontology に掲載された Oral hypofunction の概念図は、老年歯科医学に掲載された学会見解論文の概念図を簡略化し英訳したものです。したがって、Oral frailty が Oral hypofunction の前段階のように記載されています。しかしながら日本歯科医師会発表の「歯科診療所におけるオーラルフレイル対応マニュアル 2019 年版」では、オーラルフレイル (Oral frailty) は「老化に伴う口腔の脆弱性が増加し、食べる機能障害へ陥り、心身の機能低下まで繋がる一連の現象及び過程(一部略)」と定義されています。すなわち、落ちてゆくその過程そのものがオーラルフレイルなのです。このマニュアルの作成には、学会見解論文の著者やオーラルフレイルの提唱者である飯島勝矢教授も携っており、本会としてもこの定義を支持しています。



在宅歯科医療委員会からのお知らせ

委員長 佐藤裕二

「歯科訪問診療における感染予防策の指針2021年版」が 日本歯科医学会歯科診療ガイドラインライブラリに掲載されました！

COVID-19 蔓延下で、「在宅医療全般」の指針は、日本在宅医療連合学会から出されていますが、歯科診療に関しては1.5ページです。一方、歯科診療に関する指針は日本歯科医師会より出されていますが、歯科訪問診療に関する記述はほとんどありません。

そこで、安心安全な歯科訪問診療を行うために、水口理事長のご指示および日本在宅医療連合学会のご協力のもと、指針を作成しました。また施設職員の教育ツールとして「口腔ケアリーフレット(右図)」と「高齢者施設職員向け口腔ケアの手引き」も作成しました(<https://www.jads.jp/guideline/index.html>)。ぜひご活用ください。



歯科診療ガイドライン
ライブラリ

【委員会企画セミナー開催！】

2022年1月21日(金) 20:00~21:00
「コロナ禍における在宅訪問の実践的対策」
講師：篠原弓月先生(歯科衛生士)
口腔栄養サポートチームレインボー



詳細はこちら

介護業務の注意点

口腔ケア

口腔ケアを行ううえで

口腔ケアが不十分だと、口腔内が不潔になり、誤嚥性肺炎を生じる可能性があります。口腔ケアでは飛沫がでることがあるので、実施には注意が必要です。できるだけ防護具を着用しましょう。



口腔清掃時の注意点

- ・可能な方は、清掃前に殺菌消毒剤で洗口してもらいます。
- ・なるべくセルフケアを可能な範囲で行ってもらいます
- ・介助みがきを行う時は、不織布マスク・手袋は必ず装着します。ガウン・エプロン・フェイスシールドの使用も望ましいです。
- ・義歯を装着している場合は、注意深く外します。(乱暴に行くと歯を傷めます)
- ・ブラッシングは細かくブラシを動かし飛沫を減らしましょう。
- ・水を使うと、汚れが喉の奥に流れ込んで誤嚥するリスクがあるうえに、誤嚥や飛沫が周囲に飛び散るリスクが増えます。口腔内を保湿剤で潤すと粘膜を傷つけにくいです。
- ・口腔内が乾燥している場合は、歯科医師に相談しましょう。
- ・口腔ケア後は十分な換気をしましょう。
- ・個人防護具除去後の手指衛生は確実にに行いましょう。



義歯の洗浄

- ・外した義歯は飛沫を生じないように清掃しましょう。
- ・基本的には、夜間は外し、水または義歯洗浄剤を使用し、患者ごとに保管しましょう。
- ・義歯の管理は歯科医師・歯科衛生士の指導の下に行いましょう。



口腔清掃や義歯の洗浄については、学会HPに動画を準備中です



一般社団法人
日本老年歯科医学会
Japanese Society of Gerodontology

2021.4.30

成果物が歯科雑誌に紹介されました!!

本委員会の成果物が下記に紹介されました。ぜひ、ご一読ください。

○日本歯科評論(The Nippon Dental Review)

2021年10月号

TOPIC

「歯科訪問診療における感染予防策の指針2021年版」
活用のすめ

「高齢者施設職員向け口腔ケアの手引き+口腔ケアリーフレット」

○クインテッセンス8月号

GUEST EDITORIAL

日本老年歯科医学会「歯科訪問診療における感染予防策の指針2021年版」



日本歯科評論



クインテッセンス

専門医活動レポート

大泉 誠先生
(東京都・大泉歯科医院)

○地域での多職種連携

大学卒業後、当時開設したばかりの高齢者歯科学講座の大学院に進み、医局で5年勤務後、渋谷区で開業して20年を超えました。地区の歯科医師会で理事に就任した頃、「柏プロジェクト」という言葉を耳にし、実際に柏歯科医師会の先生のご好意で、会議を見学させていただいた辺りから、渋谷でもこんな風にできたらと思うようになりました。その後ほどなく、渋谷でも医師会が中心となり、多職種連携の会が始まりました。当時、歯科医師会では施設への訪問診療をメインとして、在宅での診療も始めた頃で、会員の協力医と摂食嚥下障害専門の常勤歯科医師とで対応していました。写真は当時の多職種研修会で口腔ケアの実際のデモを行い、その後、グループ研修の前にグループごとで昼食を撮っているものです。今はコロナ禍で思うような活動ができない状況ですが、今後も協力医を増やし、Webではない近くで顔の見える関係の医療連携を築いていきたいと思っています。



多職種研修会の様子



グループ研修前の昼食

才川隆弘先生
(静岡県・才川歯科医院)

歯科訪問診療に求められることは時代とともに変わり、患者さんの枕元で壊れた義歯を修理するだけで喜んでもらったときから、よく噛めることや発音といった診療室同等の結果を求められるようになりました。最近では残存歯や補綴装置の問題だけではなく、咀嚼や嚥下の機能についても対応が求められ、ケアマネジャーや訪問看護師など多職種からは“食べる”に関する問い合わせが多くなっています。

このような現状をふまえ、校長を兼任する、浜松市歯科医師会立浜松歯科衛生士専門学校では、口腔機能低下症や嚥下にかかわる実習を歯科医師会員の協力を得て行っています。吸引および頸部聴診、マネキンを使った嚥下内視鏡操作など少し前に卒業した先生は経験していない内容です。また、舌圧測定器やグルコセンサー、ムーカスなどの検査機器とともにサクソテストなど昔からの検査も含めた実習に取り組んでいます。現場で歯科医師の指示のもと、動ける歯科衛生士育成に努めています。



実習の様子（咀嚼能力）



実習の様子（舌圧測定）

寺尾導子先生

(北海道・医療法人臨生会吉田歯科分院)

当法人では、依頼を受けて実地指導付きの口腔ケア・管理にかかわる研修会を行っています。依頼元は、地域包括支援センター、保健所、多職種ネット、障害支援施設、高齢者施設などで、研修対象は高齢者を含む市民、医療・介護・看護にかかわる専門職、施設のスタッフや入所者などです。主催者の趣旨に沿って計画を立て、5～6名の歯科衛生士と1～2名の歯科医師で出向き、口演の後で検査や口腔ケアの実地指導をしますが、実地指導になると参加者の目からうろこが落ちるのがわかります。高齢者食生活改善事業「楽食健幸講座」では、口腔機能低下症啓発のため参加者に口腔機能の検査を実施したところ、参加者にも主催者にも好評で、検査結果を見て皆一喜一憂。私が所属している多職種ネットでも、今年度の4つの事業取り組みの一つに「在宅での口腔ケア・オーラルフレイル対策」を挙げました。今後も本学会から得られる知識を駆使して、認定医や認定歯科衛生士の協力を得ながら地域社会に貢献したいと考えております。



研修会では実地指導も行っています



口腔機能検査中の様子

| 支 | 部 | だ | よ | り |

奈良支部主催セミナー 「高齢者の食支援と低栄養予防」研修会 開催報告

奈良支部 小向井英記

2021年6月27日(日)、奈良県歯科医師会館で「高齢者の食支援と低栄養予防」がテーマの研修会を奈良県歯科医師会・歯科衛生士会との共催で開催しました。参加者数は歯科医師39名、歯科衛生士22名の計61名でした。講師の北海道大学大学院の渡邊 裕先生にWeb上でご講演いただきました。オーラルフレイルを含めたフレイル予防、口腔機能低下症に対する検査と対処・治療、栄養摂取と口腔の健康や口腔機能との関連などの内容を基にした講演で、多くの動画を交え解説していただき、たいへん有意義な研修会となりました。



渡邊先生にリモートでご講演いただきました



質疑応答の様子

第10回高齢者医療 臨床研修会報告

研修委員会委員長 竹島 浩
同委員・幹事 田村暢章

2021年度の研修委員会企画としてのLive研修会が2021年9月10日(金)20:00~21:00に開催されました。今回は神経内科・神経生化学分野でご高名な名古屋市立大学医学部神経生化学教授・道川 誠先生をお招きし、司会・岩佐康行先生、座長・田中 彰先生のもと「認知症患者への対応について～歯科、口腔と認知症との関わり～」と題し、これまでに蓄積された多くの研究データとともにご講演いただきました(参加者数218名)。アルツハイマー病に關する遺伝的要因とリスクのなかで炎症にかかわる因子もいくつか発見されており、歯科領域において特に歯周病、歯の欠損、咀嚼機能低下との関係や今後の研究の方向性について丁寧に解説いただき、たいへん有意義な研修会となりました。本年度はオリンピック・パラリンピックの影響により研修会の開催が少し遅れておりますが、計6回の開催を予定しております。

～第10回高齢者医療 臨床研修会～オンラインLive研修会
主管・企画:研修委員会

認知症患者への対応について ～歯科、口腔と認知症との関わり～

講師:名古屋市立大学医学部 神経生化学 教授
道川 誠 先生



道川先生にご登壇いただきました

【今後のオンラインLive 研修会予定】

○2021年10月29日(金) 20:00~21:00
委員会企画セミナー(多職種連携委員会)
「管理栄養士の業務や地域における取り組み
～歯科との連携～」
講師:前田佳予子先生(管理栄養士)
武庫川女子大学食物栄養科学部食物栄養学科 教授
日本在宅栄養管理学会 理事長



○2022年1月21日(金) 20:00~21:00
委員会企画セミナー(在宅歯科医療委員会)
「コロナ禍における在宅訪問の実践的対策」
講師:篠原弓月先生(歯科衛生士)
口腔栄養サポートチームレインボー

【今後のオンライン歯科衛生士セミナー予定】

○2021年12月12日(日) 10:00~11:00
「歯科衛生士が知っておくべき薬剤の
基礎知識(仮)」
講師:野原幹司先生
大阪大学歯学部附属病院顎口腔機能治療部 准教授



○2022年2月27日(日) 9:00~10:00
「歯科衛生士が行う高齢者への食事指導のことはじめ(仮)」
講師:尾関麻衣子先生(管理栄養士)
日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック

委員会だより

財務委員会

委員長 山崎 裕

財務委員会は、日本老年歯科医学会のお金の出入りに関して検討・管理する委員会です。毎年会員から納入される学会費が適正に運用されているかを見守る役目もあります。

日本老年歯科医学会の昨年度会員数は4,000名に達し、予算規模は年1億円を超え、年々着実に大きくなり、収支も毎年順調に執行されてきました。しかし、COVID-19の影響で収支状況は一変しました。収入はわずかな減少で抑えられましたが、各種委員会や会議がオンラインで実施されたことで会議費、交通費、宿泊費などが掛からなくなったことから支出が大幅に減少し、結果として多くの余剰金が発生しました。そこで、未曾有のコロナ禍の現状で先行きが見通せないために今後の備えを考慮したうえで、例年以上に多くの学会主催の研修会を企画し、オンラインライブで会員には無料配信し、会員サービスに努めています。今後も会員ファーストの事業を数多く打ち出し、会員であることのメリットを実感できるように取り組んで参ります。そして厳しい状況が今後も続きますが、本学会の財政基盤の安定に努めていく所存です。

表彰委員会

副委員長 田中 彰

第32回学術大会において、課題口演賞ならびに優秀ポスター賞のコンペティションにエントリーいただいた会員と、開催事務局ならびに審査員の先生方に感謝申し上げます。前大会に続きオンライン開催となりましたが、皆様のご協力で無事に審査業務を完了することができました。コロナ禍は、オンラインにおける貴重な対面発表、質疑の機会を奪いましたが、一方でICTを活用した新たな審査集計方法を活用できました。アフタコロナに向けて、活かしていければと考えております。

近年、優秀ポスター賞のエントリー演題の質の向上が著しくなっています。特に「歯科衛生士部門」においては質の高い臨床研究の演題が多く、喜ばしいかぎりです。一方で、委員会では、地域で高齢者医療に従事する歯科衛生士の症例報告も重要と考えており、優れた報告が最終コンペに残り審査を受けていただけるように、選考細則を改定し、症例報告を奨励しております。奮ってエントリーいただきたく、よろしくお願いたします。

第33回学術大会に向けて #JSG22

「噛んで味わって語り合おう 老年歯科 in 新潟」というテーマを掲げた第33回学術大会まであと半年近くとなり、新型コロナウイルス感染症の状況を日々案じながら、開催準備を進めさせていただいております。現在第5波は収束したかのように見えるものの、次の感染拡大が来ないか最後まで予断を許さぬところであり、現地開催とハイブリッド開催の両にらみで準備せざるを得ません。

しかし、各委員会より非常に多くの魅力的な企画を多数ご提案いただき、これらをどうやってタイムテーブル上に載せるか、おかげさまでうれしい悲鳴を上げております。さらに、多くの研究発表、症例報告、活動報告などをお寄せいただくことにより、コロナ禍のなかであっても、多職種が連携し、いかにして高齢者の健康と生き

大会長 小野高裕（新潟大学大学院包括歯科補綴学分野）

がいを口腔から守り高めていくが、最新の情報と知識と展望を共有できる三日間になることでしょう。

どうか、来年6月爽やかな初夏の新潟で皆様とお会いできますように！



第24回日本歯科医学会学術大会報告

2021年9月23～25日にオンラインにて開催されました日本歯科医学会学術大会におきまして、本会は4つの講演・シンポジウムにて発表いたしました。参加者との活発な質疑応答が行われ、非常に有意義な講演・シンポジウムとなりました。なお、本学術大会のオンデマンド配信期間は2021年10月31日(日)17:00までとなっております。配信期間中は参加登録可能です。本会会員は参加費無料となっておりますので、ぜひご視聴ください。



講演8「認知症の人の口を支える視点:ガイドラインからの提言」(平野先生, 水口先生)



シンポジウム19「『口腔機能低下症』でオールフレイルを防ごう！」(水口先生, 池邊先生, 上田先生, 津賀先生)



歯科衛生士セッション「口腔機能低下症の評価と管理において歯科衛生士に求められる視点」(小原先生, 水口先生)



歯科衛生士セッション「認定歯科衛生士の必要性和魅力を探る！」(佐藤先生, 石黒先生, 菅野先生, 丸岡先生, 吉田先生)

編集後記

学術大会や研修会のオンライン開催が当たり前の世の中となりました。自宅で手軽に視聴できる便利さがありますが、やはり活気あふれる会場での開催が恋しい今日この頃です。来年の学術大会は、新潟に足を運べることを切に願っています。

(小原由紀)

発行人 水口俊介

編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

E-mail gakkai30@kokuhoken.or.jp